

# 灯



人生にはさまざまな節目があるが、学校の卒業はその一つだろう。早いもので高校を卒業して50年が過ぎた。50というのは大きな区切りだから同期会をやるうーと思いついた同期の有志から、案内を頂いた。

## 卒業50周年



草野 義輔

年齢的に次があるかは定かではないので当然参加の返事をし、上京した。

引き継がれていた。

私の母校は東京都目黒区の柿の木坂を上った所にあるが、柿の木坂は小説「陽のあたる坂道」の舞台でもある。団塊の世代の同級生は350人。果たしてどのくらい集まるだろうか、顔は分かるだろうか、などと思いつきながら当日を迎えた。

幹事たちが大変努力をして参加者全員の名札を作り、それに

卒業アルバムから高校時の顔をプリントしてくれている。皆感激して通常は終われば処分するが多くが大切に持ち帰っていた。

米国やベトナムからの参加もあり、120人ほど集まった同期との懐かしくも楽しい時間はあつという間に過ぎていった。

正門が残っている、  
というので記念写真を撮る。校舎などは改築されていたが、  
正門だけは東京府立時代からしっかりと

私は今年校舎を新築したが正門には創立時の石柱を移転再活用した。創立からの伝統を正門に託したいとの願いを込めたつもりだ。自分の母校が正門をしっかりと引き継いでくれていることに感謝するとともに、石柱移転は正解だったと確信した。(昭和学園高校理事長・日田市)